

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	連坊小路グループホームスカイ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	仙台市若林区連坊小路135
記入者名 (管理者)	天野 眞由美
記入日	平成 21 年 2 月 21 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	事業所の行事、地域の行事に関し連携をもっととり、お愛互いに積極的に参加出来る環境を作りたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	運営推進会議等を生かし地域の人が気軽に立ち寄れる場所作りをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後は町内会の清掃等にも参加をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者様との買い物、散歩の際お会いする地域の高齢者様に積極的に声掛けするようにし当事業所の存在を理解して頂くように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新会社になり初めての外部評価である為、具体的改善には至ってない。	○	今回は職員が変わったりして全員参加が困難であった。今後は自己評価、又は外部評価を行うことにより日々のケアを見直し、常に緊張感を持ち積極的に改善に取り組めるようにしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行っている。	○	運営推進会議での意見等を全職員に伝えきれてないので今後はグループホームのミーティングを利用し伝えていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今は取り組めてない。	○	地域密着の観点からも今後は適正なサービスの提供を行うために、市町村が主催する講習会、研修会等に積極的に参加し交流を持って行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度についての知識の習得に努めている。またご家族より説明を必要とされた時は時間を取り、説明をさせて頂いているが個々の必要性の関係者との話し合いはされてない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員で個々に事業所独自のマニュアルを熟読し全体のミーティングでも徹底した周知に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、御本人、ご家族、またはケアマネ等にも話を聞き、契約内容への詳細な説明を心掛け、信頼関係を築くように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の内部、外部の苦情受付者を表記し、意見箱も設置している。常日頃の入居者様との会話からも苦情、要望等を引き出すように心掛けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期郵便は請求書のみである。	○ 現在家族レター中断してるので早急に再開したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に外部、内部の苦情受付窓口を明記し、契約時に説明するようにしている。また施設内にも掲示している。	○ 苦情等ご家族は、特に言い出せなく我慢されてる場合も考えられるので、気軽に言って頂けるように普段から積極的な交流を図り言い安い環境を作って行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が意見、要望等を言いやすい雰囲気作りに努め、ミーティングの場でも活発に発言できるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	施設内等の行事に合わせ勤務の調整を図ったりしている。余剰人員の確保は困難であるので、管理者も含め全職員の協働意識のもとシフト調整をしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職や移動の事実は入居者様の理解度により伝え方を変えている。その後の入居者様の様子に気を配り、ダメージが少ないように配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員採用時、業務マニュアルの周知や介護の基礎を学ぶ機会を設けている。	○ 今後は新規採用時より計画的に育成し外部研修等も職員が平等に出れる環境を作っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者間とは研修等を通し交流があり、知識の伝達及び情報の交換に努めている。	○ 地域の同業者との交流の機会を設ける為、尚一層ネットワーク作りに努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、管理者の主張や思想等を聞く機会を随時設けている。又、管理者は職員の悩みを聞く姿勢を常に持ち、働きやすい環境作りに努めている。	○ 随時面談の機会を設け、話しやすい環境とし職員の離職が無いように努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	今は明確な取り組みはない。	○ 目標を明確にし、職員各自の努力や実績に対し、適切に評価できるようにしたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前何度も自宅訪問、介護支援専門員との連絡調整を行い事前情報を数多く収集するようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様への連絡、相談できる体制を整えている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、支援の度合いを確認する為、入居申込書を作成し、諸情報の記入を行って。全職員で検討する体制になっている。	○	入居までのケアマネとの連絡を密にし、医療面等での対処が遅れないようにしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居を行い、馴染めるかお互い判断後、手続きを行っている。また徐々に馴染めるように接し方にも配慮しご家族ともまめに連絡を取り合うようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	担当者を決め、1対1の信頼関係作りをしたり、職員と入居者様との共同作業を推進することにより共同生活の和を意識するよう周知している。	○	日常生活に於いて、対話や共同作業の時間を設けるように努め、個々の対話の時間も多くとるようにしたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の現状等をお知らせし、出来る範囲での協力を頂いている。	○	今後も定期的に電話をしたり、家族レター等を作成し来て頂ける環境を作りたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	普段の入居者様との会話や情報シートの中から関係を理解しながらの支援を心掛けている。	○	入居者様だけでなく、とりまご家族との関係を考えながらの支援をしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	対話の中で縁のある場所等の聴取にも心がけている。面会には制限時間等も設けず、宿泊も可能である。	○	馴染みのある店には、ご家族の協力のもと一緒に行って頂いたりしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格を理解し、職員が仲介に入る等して入居者様同士のコミュニケーションがとれるように努めている。	○	問題がある場合、個別での話し合いの場を設け、より良い関係を築けるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了の入居者様、ご家族様の状況の把握に努める体制作りを検討中である。	○	各行事の招待状、案内等の送付を検討している。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話のなかで、個々の訴えや希望を聞くように努め、様々な観点から入居者様の生活を支援できるようミーティングを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の記録は職員全員が周知できるようにファイルされ常に読める状態になっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録を個々に行っており、また、表情、状態を記録するように周知している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングを行い、意見を出しあい介護計画を作成している。	○	医師からのケアへのアドバイスや意見を取り入れ、ご家族とも一緒に考えたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画をもとにケアを行い、見直しの必要がでた場合、ミーティングを行い、新しい介護計画書を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録を個々に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の改善点は、相談している。	○	全職員の各利用者に対する気づきを活用する為、定期的なケアカンファレンスを実施したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム内だけの利用者様間の交流だけではなく、デイサービスの利用者様も含めた交流を行っている。	○	入居者様個々の残存能力維持の為、通所施設設置のマシン等も活用したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練等を地域所轄の公共機関の指導監督のもと実施している。また、地域の老人会等の季節毎の行事に、入居者様も参加している。	○	各施設の見学、交流などグループホーム外での活動をさらに広げていきい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用されてる方もいらっしゃいます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが主催する会合に参加している。	○	地域密着の関係構築のためにも、地域包括支援センターや地域の社会資源との交流を活性化したい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専属の往診医を配置しているが、御本人またはご家族の意向を汲みながら、希望の医療機関での定期的な受診ができる。	○	特変時の対応をより充実したものにする為に、出来るだけ全入居者様が、往診可能な医師の受診ができるような体制を検討する。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	○	専門医の指導のもと、認知症の緩和ケアへの取り組みも行っていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	○	入居様様の心のケアを大切にし、医療と介護の連携により回復への意欲を高め、早期の退院を目指す。退院後のリハビリ計画を事前に検討する。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	同上	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	全職員で入居者様のプライバシー確保の意識を常に持ち、外部への情報の漏洩にも一層注意して行きたい。また職員同士も注意しあえる環境にする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	会話が一方的にならないように会話のキャッチボールが出来るよう職員の教育を実施したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	個々の入居者様が、共同生活を続ける事で生じる、不満やストレスを上手く解消することができるよう1対1のコミュニケーションを増やして行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	ある程度外出が可能な入居者様には、職員の付き添いのもと衣類の買い物等の支援を考えたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	○	グループホーム内の食事だけでなく、外食やパーティーの機会を設け普段と違った楽しさを感じていただきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	入居者様だけでなくご家族の意向も汲み嗜好品のことは考えて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各入居者様の排泄のパターンを把握し、トイレ誘導等を行い、下剤等も医師の指示のもと排便コントロールをおこなっている。	○	排泄の失敗があっても自尊心を傷つけないように声がけし、気持ちよい排泄ケアを心掛ける。現在、夜間帯オムツの方がいらっしゃるが尿意、便意あるので御本人の意向も伺い外す方向へ検討したい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、希望があればなるべく対応している。ゆっくり、ゆったり入浴して頂けるように、入浴剤を使用したり楽しみを増やしている。	○	入浴拒否が見られた場合、その方の意思を尊重している。拒否時は足浴等で対応し清潔保持に努め、なぜ拒否があるのか検討し、声かけの工夫、タイミング等を探って行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	気持ち良く休息したり、安眠できるよう個々の記録や睡眠パターンを把握し、昼夜逆転にならないよう生活リズムをつけるように支援している。	○	その時々によって就寝時間が異なる入居者様に対しては、その方が安心して入眠できるような声かけや対応をしている。夜間覚醒が多い入居者様へは眠剤の導入も検討したい。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者様の現在の力を活かし、洗濯物たたみ、食器拭き、テーブル拭き、配膳、調理、等を行って頂いている。また気晴らしに散歩の支援もしている。	○	入居者様の生活意欲の向上を考え日々メリハリのある生活が出来る支援をする。特に男性入居者様に対する役割を考えたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば一緒に買い物へ行き、入居者様個々の金銭の力量に応じ支援している。	○	機会があれば買い物等は職員と一緒にいきお金の大切さを失わない支援を続けたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	普段の買い物は入居者様と一緒にいき、天気の良い日は、近辺を散歩したりしている。	○	もっと身近に季節を感じられるように外に出る機会を作り、暑さ寒さ等を肌で感じる事ができる支援をしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行ける所へは(近隣への買い物、散歩)職員、御家族と行ってるが、普段行けないところへの支援は今現在行えていない。	○	各入居者様の能力に応じ外出支援を行っている。うまく意思表示が出来ない入居者様に対しては、気分転換もかね、散歩や買い物となるべく外出して頂くようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月、贈り物が届いたときなど電話をして、喜びに繋げる支援をしている。	○	現在、家族レターを中断してるので早急に再開したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会には時間の制限はなく何時でも気軽に訪問して頂けるようにしている。来訪時はゆっくり過ごして頂けるようお茶等を提供している。	○	回数多く来訪されるご家族と、色々な事情により来訪できないご家族もあるのでそのご家族に対し回数は少なくとも、行事等に参加して頂くように促して行きたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルは作成してありいつでも閲覧できる。身体拘束に対し禁止となる行為を理解しているのは職員によりバラつきがあるが、身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけない。入居者様が居室内より掛ける鍵はプライバシー保護のため除く。徘徊等に対しても、理由を探る努力を対処している。ただし夜間帯は、不審者の侵入防止の為玄関の施錠はしている。日中帯はブザー対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必ず全職員が入居者様の所在や様子を把握している。日中居室で過ごしていたり、臥床している入居者様に対しては、まめに様子を伺いに訪室したりして、安全に配慮している。	○	日中居室で過ごす入居者様にたいしてはコミュニケーションをとったり、興味のあること等を提供していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等の注意が必要なものは保管場所、管理方法を決めており、高い所には危険なものは置かないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため各入居者様に応じての防止策を検討しており、全職員周知している。事故ひやりハット発生時は、今後再発防止のため改善策を検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを配置し、全職員が周知している。また研修会も開催している。	○	マニュアルはあるが、実際に行動できる職員がいるのかは疑問である。もっと研修会、勉強会を開催する必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時、緊急時マニュアルは完備している。しかし夜間帯は特に職員がパニックになる可能性があるため、個々にマニュアルを配布している。	○	この地でありえる災害等を想定し、マンネリ化しない訓練を行う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	明確になっていない。	○	ご家族との話し合いを行えていない為、今後家族会等の開催を行い、完全なリスク対応は身体拘束に繋がることを理解して頂き、起こりうるリスクについての話し合いをしたい。会議体の設定はないが、個別には対応している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックの変動を捉え、個々のパターンを明確にしている。入居者様自身は不調の訴えができないので、デイナースにも連絡したりし、職員も常に注意深く対応するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は用法、用量を理解している。変化にたいしても医師との連携、申し送りの徹底に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	身体を動かす機会が少ない為、日中帯にラジオ体操を行っている。また食事メニューにも配慮し便秘予防に繋げている。個別対応で同一施設内のデイサービスのマシンを利用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前の義歯のケア、起床時の歯磨き、食後の口腔ケアは入居者様の能力に応じ、職員の介助で行っている。	○	嚥下体操やあごの強化を図り、長く口腔摂取が出来るように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○	感染症の実例等により、勉強会を行い、対処法、及び予防法を学ぶ機会を多くする。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○	台所周りも常に清潔にし、掃除を行う。食材は多くの買い置きを避け日々地域交流も勘案し近所のお店で買ようにする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	○	玄関周りは殺風景な為、季節の花や入居者さまの写真(行事時)を掲示し、華やかにしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○	今後も季節を感じていただけるようにその時季の雰囲気のあるものを飾っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○	食事、くつろぎの時、同じ空間で過ごす事が多いので、その時間毎に雰囲気を換えられる工夫をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品を危険等を考慮しながら、居心地のよい空間作りをしている。	○	各居室を御本人の話しを聞きながら一緒にくつろげる空間を作って行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、浴室はまめに換気はおこなっている。トイレ内の臭いには消臭スプレー(ステリプロ)を使用し配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで、手すりもあり自力で車椅子での移動が可能な空間となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	物事を職員と入居者様が同視点で捉え会話するように心掛け、研鑽している。	○	理解が困難なものに対しては、簡単に噛み砕いて説明し混乱を防ぐ。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	2階にはベランダはない。3階にはあるので職員、ご家族の同行で花観賞等をしている。	○	ビルであるという建物で限りはあるが、工夫し活かすことを検討したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

市中心部の商店街にあり、毎日の買い物や行事（バンブークリスマス、七夕祭りの飾り作成）等を通して地域の中で生活してるという感覚を大切にしております。ケアに対しては、まずその方を知り、理解させて頂く事を第一と考え入居者様が安心、安全に生活して頂けるグループホームでありたいと思っております。